

**第19回福山教育フォーラム分科会(概要)**  
～学習機能を発揮する学校図書館モデル校事業～

**1 講話「学校図書館が果たす役割,今求められていること」(P4・5,11~14)**

講師:赤木 かん子 図書館改装アドバイザー

○ 「学校図書館は,最小で最先端で最末端の図書館である」

学校図書館の利用者は,主に学校に在籍する児童生徒と教師である。

利用者は現在を知り,過去や未来に目を向けようとするため,学校図書館は,新しい情報が書かれた本(最先端)が必要となる。

規模は大きくないが,学校図書館を窓口(最末端)として,世界中の学術機関と繋がりながら学びを進めることができる。

○ 「本の管理について」

博物館は基本的にものを貸さないが公共図書館は本を貸す。なぜかという、その本がオリジナルではないからである。学校図書館にあるものも,コピー商品であり,汚れたり,傷ついたりするのは想定内としてどんどん貸出しを行ってほしい。

**2 協議「図書館の利活用」**

**(1)各校の実態(P18・19)**

常時開館している。学校図書館で落ち着いて過ごせない子どもがいたり,貸し出した本がもとの棚に戻らなかつたりする。他の学校の様子を聞きたい。

○ 考え方・対応

交流の場として運営している。話し声があっても,禁止とはしていない。

年度初めにオリエンテーションを行い,図書館の使い方(イラスト分類シールで絵合わせのようにして本を探すなど)を伝えて開館している。

利用マナーについて気づきがあれば,そのつど話をしている。

○ 返却の仕方の工夫

カウンターの横に返却用ブックトラックを置く。

**(2)取組例(P15~17)**

○ 計画的な授業での活用計画立案

○ 委員会活動